

## 5 . ITI 財別国際貿易マトリックス (2004 年版)

世界貿易を俯瞰し世界貿易の動向が把握できる「財別貿易マトリックス」を作成した。作成にあたり、考慮した点は次のとおりである。

第 1 は、最新時点のデータ利用ができるマトリックスを作成すること。公表が早い主要国の電子媒体データを活用することで、最新時点の表の作成を可能にする。年次データの場合、翌年の 6 月～7 月頃に作成できることを目指している。

2004 年版に使用した貿易統計は 43 개국・地域数のデータである。IMF の統計書 IFS (International Financial Statistics) 2004 年 8 月号掲載の世界貿易額と、43 개국・地域の統計データをもとに作成したマトリックスの貿易総額と比べると、IFS 掲載の輸出総額の約 98.5%、輸入総額の約 95.2%に相当している。

また、2003 年の貿易額をもとに、貿易額が大きい国(地域)の順に並べ上位 30 カ国を比較すると、マトリックスの作成対象国に含まれていないのは、輸出額の上位国ではサウジアラビアだけである。

なお、30 位以下で貿易額が大きい国でマトリックスの作成対象国でないのは、輸入国ではアラブ首長国連邦、チェコ、ハンガリー、イスラエルなど、輸出国では前述のサウジアラビアの他にベネズエラ、イスラエル、イランなどがある。

そうした国々の貿易データを活用できるようになれば、マトリックスの作成に活かしていくことが課題である。

第 2 は、時系列データの利用を可能にすること。最新時点だけでなく複数年次のマトリックスを作成する。毎年、継続的に作成することを目標に多時点間の比較ができることを目指している。2004 年時点における利用可能な時点は、1999 年以降の 5 時点である。ただし、過去に遡るほど、電子媒体で利用できる国/地域が限られるので、1998 年以前のマトリックスの作成を予定していない。

第 3 は、輸出入総額だけでなく、財別・品目別のマトリックスを作成すること。各国・地域の貿易統計が HS 関税分類に準拠しているため、HS 関税分類に基づいた品目別のマトリックスを作成する。

そのうえで、できるかぎり多くの品目のマトリックスが作成できることを目指している。2004 年版では、総額を含む 49 品目を作成している。そのなかには、HS 分類の体系によらない IT 関連財、その部品(「IT 関連部品」)などがある。

今後は、世界貿易や日本の貿易の分析、日系企業の海外事業活動の分析に役立つ品目を増やし充実させていくことが課題である。

第 4 は、利用目的に応じて使い勝手の良いマトリックスに組換えて使用できること。そのために、世界の国・地域を網羅した「基本表」を作成する。そのうえで、目的に応じて国・地域を集約することで、利用目的に合致した小型のマトリックスに集約する。例えば、拡大 EU（25 カ国）に焦点を当てた表、中東産油国に焦点をあてた表などの作成である。

なお、「ITI 財別国際貿易マトリックス」（2004 年版）の統計書には、先の「基本表」から東アジアを中心に国・地域を選び、本書の用紙サイズに集約した表を掲載している。

第 5 は、貿易マトリックスの表に加え、さまざまな付属表を作成すること。付属表とは、マトリックスの表の中から特徴的なものを抜き出した表を指す。その中には、マトリックスのセルの中から貿易額が大きいものを選び出した「二国間貿易表」、特定の国・地域に注目し、当該国と他の国との関係を抜き出した「特定国貿易表」、財別に分かれている表から特性のセルを選んで作成する「品目別表」などがある。

「ITI 財別国際貿易マトリックス - 付属表」（2004 年版）の統計書には、これらの付属表のうち、多くの方の関心がある表を選び収録している。

第 6 は、電子媒体での利用が可能にするため、CD-ROM 版を制作すること。ITI 財別国際貿易マトリックスおよび付属表のデータは EXCEL 形式で作成している。このため、電子媒体での活用を図るため、印刷資料のほかに CD-ROM 版を作成する。

なお、CD-ROM 版は、「ITI 財別国際貿易、マトリックス」と「IT 財別国際貿易マトリックス - 付属表」の 2 種類がある。